

笑顔と笑い声があふれた いいたて村民ふれあい集会



2月24日、昨年に引き続き、福島市飯坂町のパールセییざかを会場に「いいたて村民ふれあい集会」が開催されました。あいにくの天候にもかかわらず、約800人が避難先から集まり、互いの近況を語り合いました。会場には、再会を喜び合う皆さんの笑顔と笑い声があふれていました。

当日は雪が降るあいにくの天気でしたが、子どもからお年寄りまで、たくさんの方が来場。オープニングでダンスクラブが

りました。また、昼食会場の一角には、福島大学の学生が編集した震災の記録ビデオの上映がありました。

発表した後、愛澤文良実行委員長や菅野村長、佐藤村議会議長があいさつしました。その後、平成15年から24年の村の10大ニュースにより、村の10年を振り返りました。また、ふれあいコンサートでは、平成10年にも

会場の1階では子どもたちの再会ひろばや子育て相談会などが設置され、にぎわっていました。この日会場に訪れた来場者は「去年は来ることができなかった。今回参加して、離ればなれの人にも会えたので来て良かった」「抽選会は当たらなかつたけれど、最後まで楽しく過ごすことができた」と笑顔を見せていました。

村でコンサートを行ったチェリッシュが、歌で来場者を励ました。会の最後には大抽選会も行われ、会場は大いに盛り上がり

ました。また、昼食会場の一角には、福島大学の学生が編集した震災の記録ビデオの上映がありました。



▲変わらない歌声のチェリッシュコンサートでは握手のふれあいも



▲救護・看護服を着てなりきる子どもたち



▲キレのあるダンスを見せたダンスクラブ



▲抽選会はため息や歓声が上がります



▲子ども再会広場ではキックボクシングの体験

飯舘村までい大使を任命

村の「までいライブ」を発信し、村を応援する「までい大使」はこれまで9人が任命されていますが、今回新たに3人の方が委嘱され、ふれあい集会の席上で菅野村長から委嘱状が交付されました。



なみかわ おさむ
浪川 攻さん
記者。までい着プロジェクトに関わる。



メラニー・ブロックさん
豪州食肉家畜生産者事業団 駐日代表。



さがわ あきら
佐川 旭さん
建築家。村づくりアドバイザー。